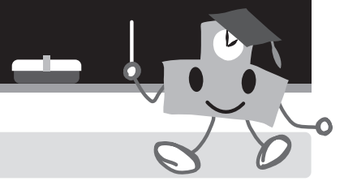
小学校の事例 南区 定山渓小学校

森から種を採り、学校で育て、植樹。自分たちの手で森をつくる。

森を舞台に種の採取から植樹まで体験。
総合的な学習の時間との相乗効果で
森の機能や生物について学ぶ。



はじまり 地域とともに森づくり

本校では、平成22年の春より北海道森林管理局の石狩地域森林環境保全ふれあいセンターが主催する「地域の森から学ぶ森林づくり」に参加している。この活動は奥定山渓国有林水源の森において、種まきなどの森づくり活動と、森林の生態や生物多様性を学び、森林の公益的機能や重要性などについて体験的に理解を深める「森林環境教育」を実施することを目的として行われているものだ。

具体的には、本校の児童・職員が奥定山渓国有林で樹木の種（郷土樹種）を採取し、学校で苗木に育て、台風などで木が消失したところに植樹している。

また森林づくりに参加するだけではなく、森林の機能や鳥、昆虫等の観察も行い、自然環境について幅広く学習している。現地に行くバスは主催者が手配し、本校の費用負担はない。

樹木の種を採取

内容 森の機能や生物について 専門家からの指導

「森林環境教育」は3～6年生が総合的な学習の時間に位置付けて取組んでおり、今年度は3回実施した。1回目は7月に「もりづくり予定地と周辺調査」と題し、森林の機能、森林の生物について学習。2回目は9月に「植物の種を学ぶ」と題し、郷土樹種の種類とその特徴や違いなどについて学習。3回目は10月に「郷土の樹の種を植えよう」と題し、土を敷いた発砲スチロール製の箱などに森林の種（郷土樹種）をまき、苗を育てる準備を行った。

種まきのようす

北海道大学大学院の准教授、森林総合研究所、技術士事務所森林航測研究などの専門の方が講師となり、直接指導を受けながら行われている。

専門の方から指導を受ける際、難しい話や専門的な言葉があるため、子供たちにもわかりやすいよう、事前に打ち合わせを行ってから進めている。

この活動には本校のほか、地域の中学校や連合町内会、山野草の会、観光協会、温泉旅館組合も参加しており、地域全体の取組となっている。また、NPO法人森林遊びサポートセンター、NPO法人水と湯の里、そして北海道大学大学院地球環境科学研究所、技術士事務所森林航測研究、北海道教育大学附属小学校、独立行政法人森林総合研究所の協力もあり、森林づくりのサポート体制も万全だ。

専門の方から説明を受けているところ

今後 身近な森から環境全体への視線を育てる

森林は近くにあるものの、普段は入ることができない。この取組は子供たちにとって、自分たちの地域の自然を改めて知ることができる貴重な機会であるとともに、「森林を守るためには多くの人々の手助けが必要なんだ」と実感する機会となっている。このような体験をとおして子どもは森林や自然を愛する心を養い、そこから「地球環境全体を守るためにはどうするべきか」について考える姿勢が見られた。

森林教室の取組は、本校では3年間を予定している。しかし、関係機関の間では継続して地域に根付いた取組にしていこうという気運が高まっており、5～6年間、またはそれ以上の取組になるのではないかと期待している。

森林の生物を観察

広げよう つなげよう 環境学習の輪

実施校からメッセージ

森林教室の他にも、連合町内会の協力を得ながら実施している地域清掃や、春・冬、年2回の運動会の合同開催など、地域の方々との交流が盛んです。今後も森林活動や清掃活動など、現在地域とともに取組んでいるものを工夫しながら継続して取組んでいきたいと思っています。

また、各学年で総合的な学習の時間にいろいろな自然や地域について学んでいます。そのようなこともあり、子供たちは生き物や植物を育てることに関心が高く、飼育委員会は、水槽の魚やうさぎの世話に熱心に取組んでいます。

身近にある自然、ごみの減量やリサイクルなど、当たり前にあるものを再確認しながら、子供たちの興味・関心を環境につなげて学習していくことが大切なのではないでしょうか。